



平成 31 年 1 月 23 日 (水)
愛知県立大学 戦略企画・広報室
担当：伊藤
電話 0561-76-8636

公開シンポジウム“コミュニティアートを考える” なぜ愛知の地域芸術祭で 外国人労働者は主題化されないのか

現代アートでは「社会の問題を可視化する」という批評性を帯びた実験的試みがなされてきました。特に人々が自由に国内外を行き来するようになった近年は、個人が新たに場所や他者との関係を編み直すことが迫られた時代を反映する作品が目立ちます。本シンポジウムは、地域社会に照準化した現代アート＝コミュニティアートの可能性や課題について思考するために企画いたしました。そこでは、愛知県のみならず、日本での現代アートや地域芸術祭の議論にまで射程が届くことを期待しています。ぜひ貴社で取り上げていただきますようお願いいたします。

日時	2019年2月17日(日) 13:00～17:00(開場 12:30)
会場	愛知県立大学 サテライトキャンパス(愛知県産業労働センター『ウインクあいち』15F)
登壇者 ※ポスターも ご参照ください。	藤原 智也 氏 (愛知県立大学 准教授、博士) 藤田 直哉 氏 (批評家、二松学舎大学非常勤講師、博士) 市川 寛也 氏 (東北芸術工科大学 講師、博士)
当日の予定	13:00～13:10 開会挨拶 13:10～14:40 第一部 講演 14:50～16:50 第二部 パネルディスカッション 「社会を造形するアートに向けて」 16:50～17:00 閉会挨拶
参加方法	参加申込不要、どなたでもご参加いただけます。(※最大 60 席)
主催	愛知県立大学 教育福祉学部 美術研究室
取材についての 問合せ先	愛知県立大学 戦略企画・広報室 電話 0561-76-8636 メール kouhou@puc.aichi-pu.ac.jp

公開シンポジウム

“コミュニティアートを考える”

なぜ愛知の
地域芸術祭で
外国人労働者は
主題化されないのか

参加費
無料

2/17 Sun
2019.

13:00-17:00(開場12:30)
会場：ウインクあいち15F



13:00- 13:10 開会挨拶

13:10- 14:40 第一部 講演

14:50- 16:50 第二部 パネルディスカッション

「社会を造形するアートに向けて」

16:50- 17:00 閉会挨拶

登壇者

藤田直哉

(批評家、二松学舎大学非常勤講師、博士)
『地域アート 美学/制度/日本』が話題に。文化・
芸術全般を論じているが、最近の関心は地域と美
術。著作に『娯楽としての炎上 ポストウルース時
代のミステリ』(南雲堂、2018)他。

藤原智也

(愛知県立大学 准教授、博士)
地域に関わるアートやデザインについて、社会政
策や教育実践などを対象に研究をしている。著書
『アートエデュケーション思考』(学術研究出版、
2016)他。

市川寛也

(東北芸術工科大学 講師、博士)
コミュニティ型アートプロジェクトについて研究する
かたわら、現代の妖怪文化について各地でフィー
ルドワークを行う。主な著書に『進化する妖怪文化
研究』(共著、せりか書房、2017)他。

現代アートでは「社会の問題を可視化する」という批評性を帯びた実験的試みがなされてきました。特に人々が自由に国内外を往来するようになった近年は、個人が新たに場所や他者との関係を編み直すことが迫られた時代を反映する作品が目立ちます。本シンポジウムは、地域社会に照準化した現代アート＝コミュニティアートの可能性や課題について思考するために企画いたしました。そこでは、愛知県のみならず、日本での現代アートや地域芸術祭の議論にまで射程が届くことを期待しています。

主催：愛知県立大学 教育福祉学部 美術研究室

参加申し込み不要

どなたでもご参加いただけます(最大60席)

問い合わせ e-mail: apu_ac.art@aol.com

* 本企画は科学研究費助成事業(17K14045)の助成を受けています。

